巻頭言

世界共通語

総理府統計局長　関戸嘉明

人間がお互に意志を通じ合えるのは，言葉があるからである。

猿にも猿語があるそうだ。二十数語あるとか上野動物園の飼育係の人が話されていた記憶がある。永年，猿相手に生活していると，自然に判つてくるものらしい。その物真似はできないが，「腹がへつた」とか「敵が来るぞ」とか「警戒しろ」とかいつた類の言葉だそうだ。猿語を人間が理解して猿の世界とコミュニケーションを持つ必要は，一部の研究者を除いてはなさそうである。従つて猿語を大学に進学して学ぶ必要はない。ところが人間は，地方によつてまた国によつて，いろいろと異なつた言葉を使うので不便この上もない。鹿児島弁と秋田弁では，絶対といつていい位通じ合うことはない。いわんや英語と中国語では絶対である。でも，現在世界には，英語，フランス語，ロシア語，イタリア語，中国語，スペイン語，インドネシア語等々数多くの言葉がある。

世界が昨今のように狭くなり，島国であつた日本も毎年多数の外国人を迎え，また外国へ旅行する人数が増えてきている情況からすると外国の言葉で意志を伝達しなくてはならない機会を持つ人が多くなつたと言えよう。しかし，なかなか外国語を自由にあやつることはむずかしい。世界各国の人が判る共通語があればと一寸考えるだろうが，その共通語をまた皆が学ばなければならないので，事は面倒である。

しかも各国の言葉はそれぞれ昔から発達してきてそれぞれにその地域の人間の意志の疎通に役立つているものだから，一挙に，簡単に世界共通語などを創造することは不可能である。

第二次大戦後にできた国際連合では，各種理事会や委員会やそして総会で使用する言葉を，英国・フランス・ロシア・スペイン・中国の五か国語と決めている。

昭和41年（1966年）10月に第11回国際労働統計家会議が，ジュネーヴで開かれ，田沢準一郎氏（現労働省公共企業体労働委員会事務局次長）と出席した時，身をもつて人間が使う意志表示の道具が共通でないことからくる経済的な無駄，また時間的な無駄をつくづく感じた。この会議では英語，フランス語，ロシア語，スペイン語の同時通訳を利用していた。議題は四つあつた。1）労働統計に関する一般報告，2）労働費用統計，3）国際標準職業分類の改正，4）不完全就業の測定――概念および方法。

私は国際標準職業分類委員会の副議長に指名され，議長にはカナダのマツケラー氏がなつた。カナダという国は，ご承知のとおり国内ではフランス語と英語の二語が用いられている。マツケラー氏は純粋な英語を話してくれたが，意志の疎通を十分計れたとは考えられない。ただ大いに助かつたのは，職業分類の議論は，まず内容に入る前に，例えば「大分類4.販売従事者について論じたい」と議長から指摘があるので，大枠の概念が，参加者一同にできてその中での議論となるので理解が一段と早まる効果がある。「販売従事者」の中分類や小分類について疑問や問題点の指摘をしたい人は，「4－1について」とか「4－21について」と必ず数字を述べる。この数字は読み方こそ各国で違うのだけれど簡単な言葉であり，それを覚えることはその国の言葉を覚えるよりは，はるかに容易なことである。数字には大変な便利さがあるものだと感じて会議に列席していたものである。

1は英語ではワン，フランス語ではアン，ドイツ語ではアイン，中国語ではイーである。発音はそれぞれ違つてもその表現は共通して1であるところに数字の持つ偉大な効果があると思う。日本の人口が一億二百七十二万六十人であると外国の人に知らせるのには，黙つて，10272060と書けば世界中何処の人にもすぐ判つてもらえる。

二週間ばかりの会期中に，レセプションが三回あつた。第一回目は総会のあつた夕方，参加者一同を，ILOの事務局が招待した。ホストは統計部長のラクロア夫妻で、彼等はフランス人である。一人一人握手をして会場に入る。「ボンソワール」，「メルシイボークー」，あとは参加者とワインを乾し食物をつまみ雑談をする。だが自分の意見を述べるとなると雑談のような無責任なやりとりはできない。議長に選ばれたマツケラー氏によろしくと挨拶をしてから，職業分類について統計の連続性と日本の実情を述べ，国際標準分類の適用にあたつては，厳格な規定をしないことが望ましいと述べたのだが，彼が何処まで理解してくれたか不安は残つた。しかし，彼が「分類は社会経済の発展段階に応じて異ならざるを得ないものだと考えている」と言つたので安心した。最終日の総会で総括報告をラクロア氏が行なつた。彼は前述した通りフランス人である。しかし参加者の大多数が英語を解する人達とみて，英語で報告をした。ところが職業分類委員会での議論の詳細な部分になると「明確に述べないと誤解を生じるおそれがありますので，この部分はフランス語で報告させていただく」と断わつて報告を続けたのは甚だ印象的であつた。

世界共通語を求める方が土台無理なのだろうが，統計数字は世界共通語と言えないだろうか。ロシアの公使館に招待された時も，最終日に近い日のお別れパーティーの時も，統計を作つている人達仲間は何か共通な意志が通つているように思えてならなかつた。それはやはり統計数字が世界各国共通だからではないかと思う。"Statistical figure is an international word"である。